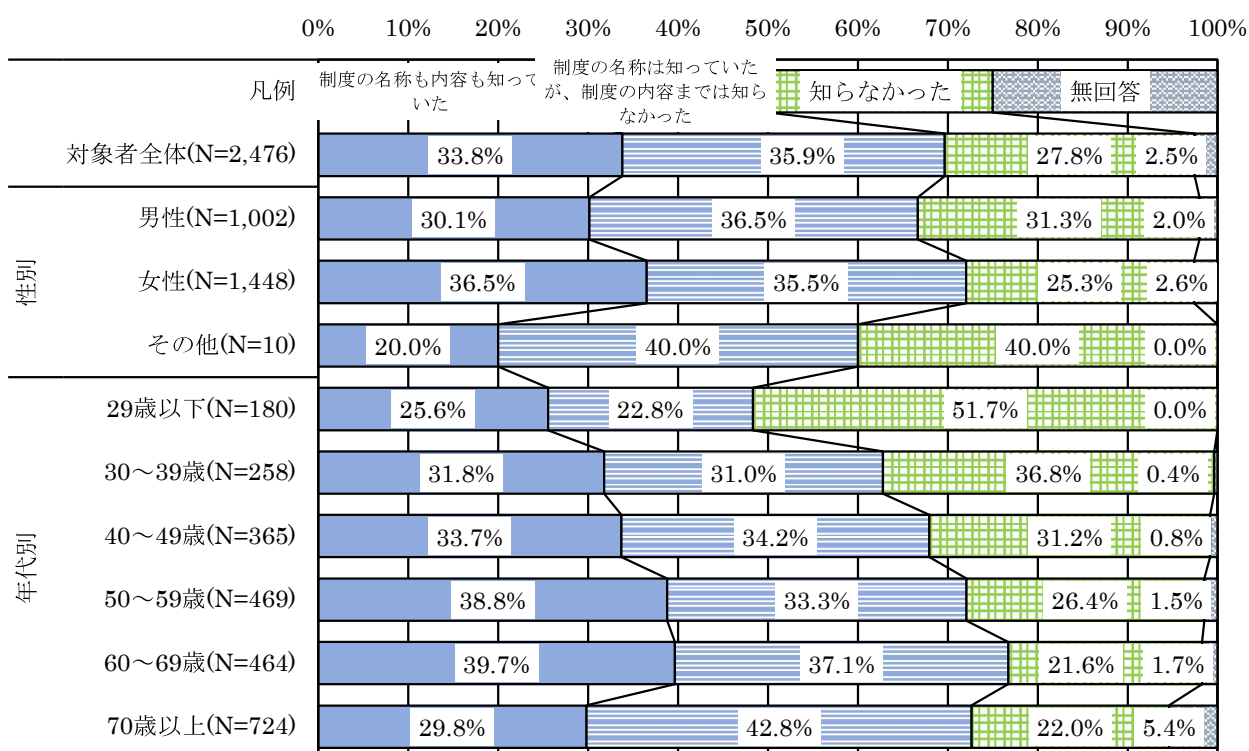
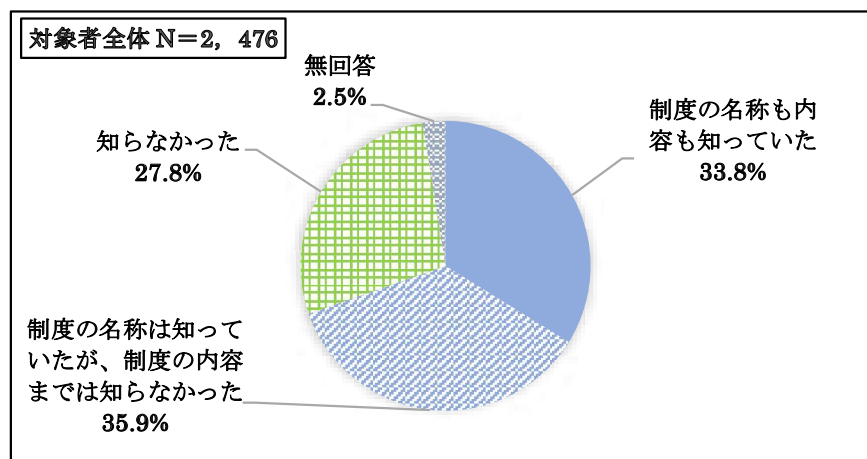


(6) 成年後見制度の認知度等について

◇成年後見制度の認知度

問 17 あなたは、「成年後見制度」を知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

成年後見制度の認知度は「制度の名称も内容も知っていた」が33.8%



【全 体】成年後見制度の認知度は「制度の名称も内容も知っている」が33.8%、「制度の名称は知っていたが、制度の内容までは知らなかった」が35.9%、「知らなかった」が27.8%となっている。

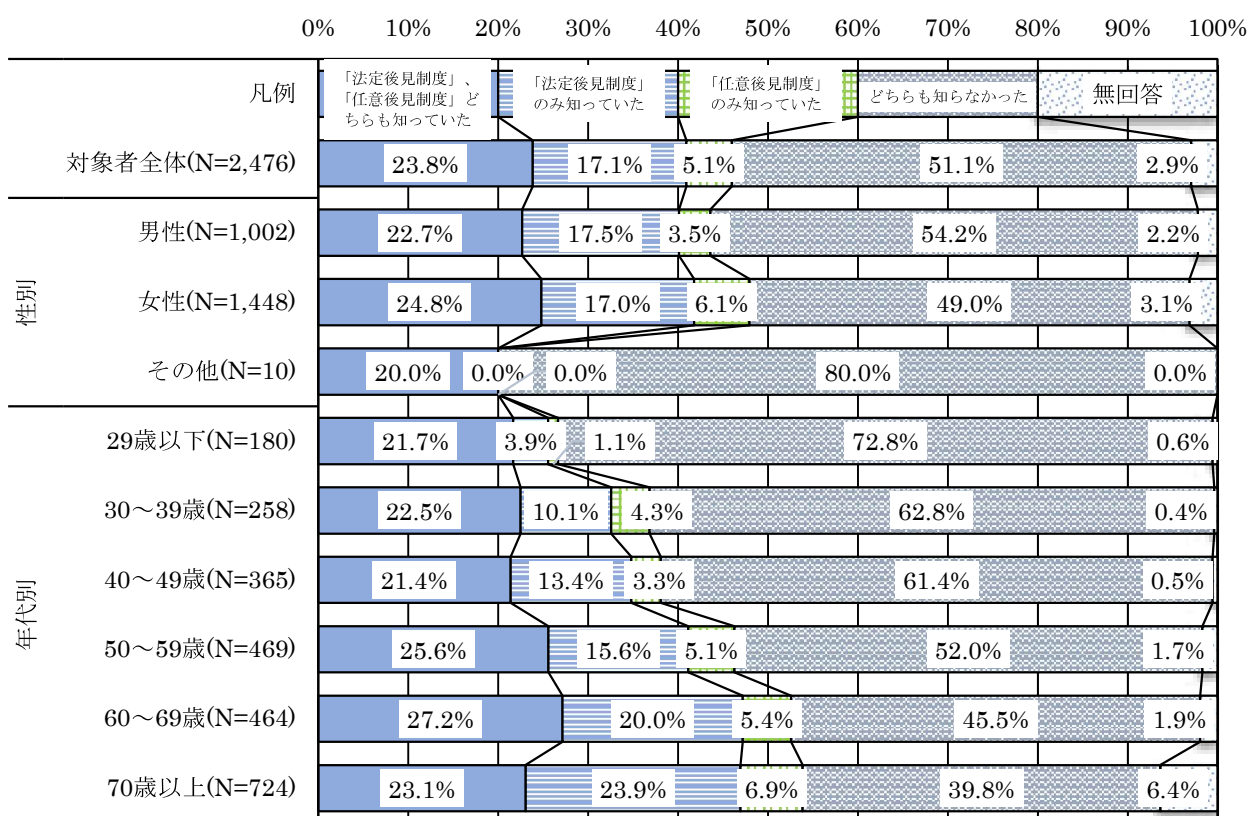
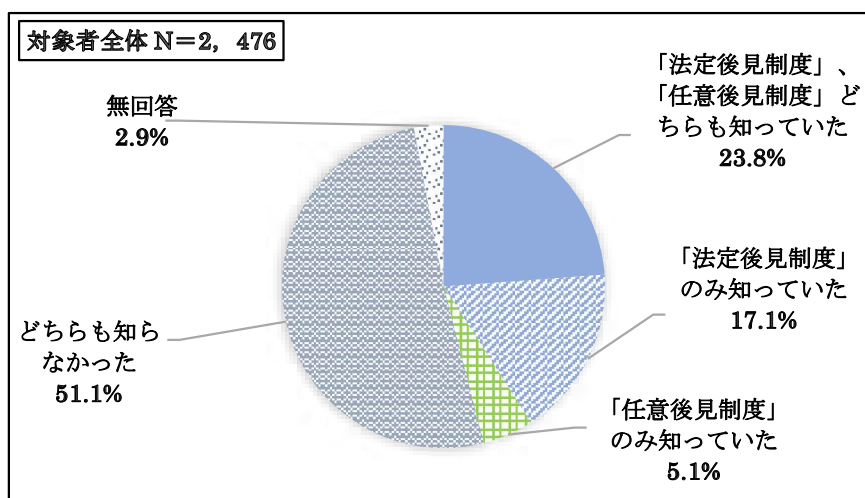
【性 別】「制度の名称も内容も知っている」は、女性で36.5%と、男性の30.1%より6.4ポイント高い。一方、「知らなかった」は男性で31.3%と、女性の25.3%より6.0ポイント高くなっている。

【年代別】「制度の名称は知っていたが、制度の内容までは知らなかった」が70歳以上(42.8%)で最も高く、次いで60歳代(37.1%)、40歳代(34.2%)となっている。

◇「法定後見制度」と「任意後見制度」があることの認知度

問 18 あなたは、成年後見制度には「法定後見制度」と「任意後見制度」があることを知っていましたか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「法定後見制度」と「任意後見制度」があることの認知度は「どちらも知っていた」が23.8%



【全 体】成年後見制度の理解度は「法定後見制度」「任意後見制度」どちらも知っていた」が23.8%、「法定後見制度」のみ知っていた」が17.1%、「どちらも知らなかった」が51.1%となっている。

【性 別】「どちらも知らなかった」は、男性で54.2%と、女性の49.0%より5.2ポイント高くなっている。

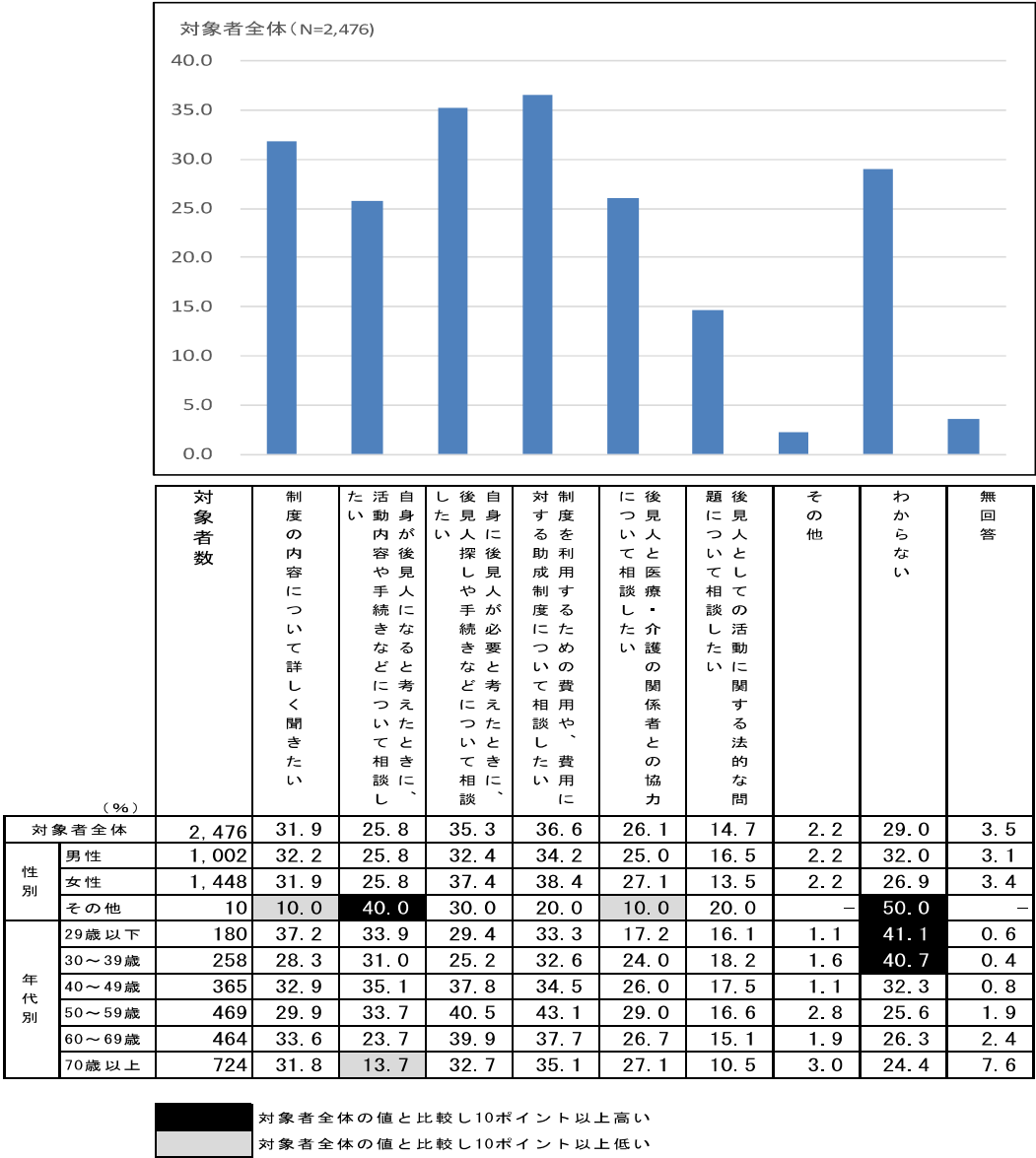
【年代別】「どちらも知らなかった」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

◇窓口で相談したい内容

「皆さまにお聞きします。」

問19 あなたは、身近に成年後見制度について相談できる窓口があった場合、窓口でどのようなことを相談したいですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

窓口で相談したい内容は「制度を利用するための費用や、費用に対する助成制度について相談したい」が36.6%



【全 体】窓口で相談したい内容は「制度を利用するための費用や、費用に対する助成制度について相談したい」が36.6%、「自身に後見人が必要と考えたときに、後見人探しや手続きなどについて相談したい」が35.3%、「制度の内容について詳しく聞きたい」が31.9%となっている。

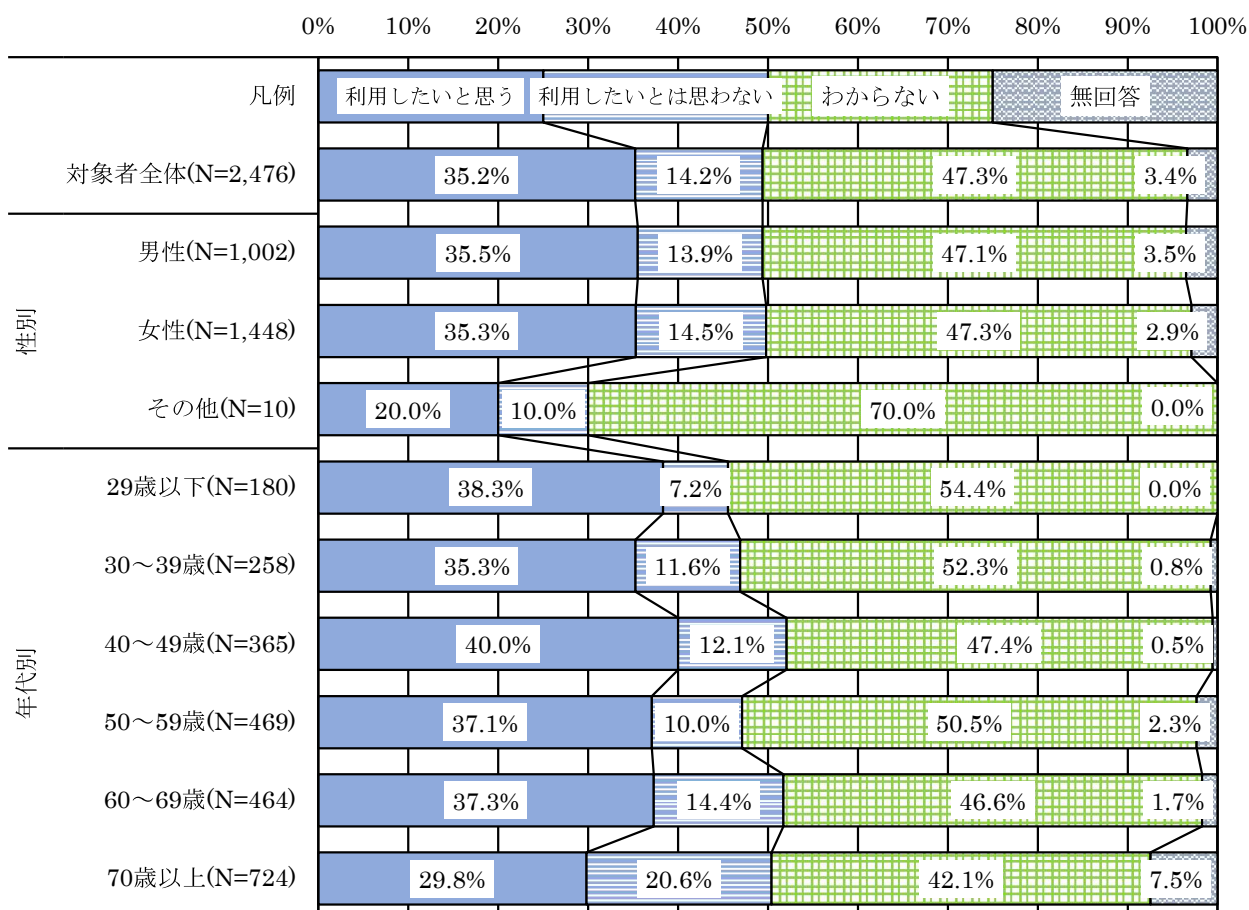
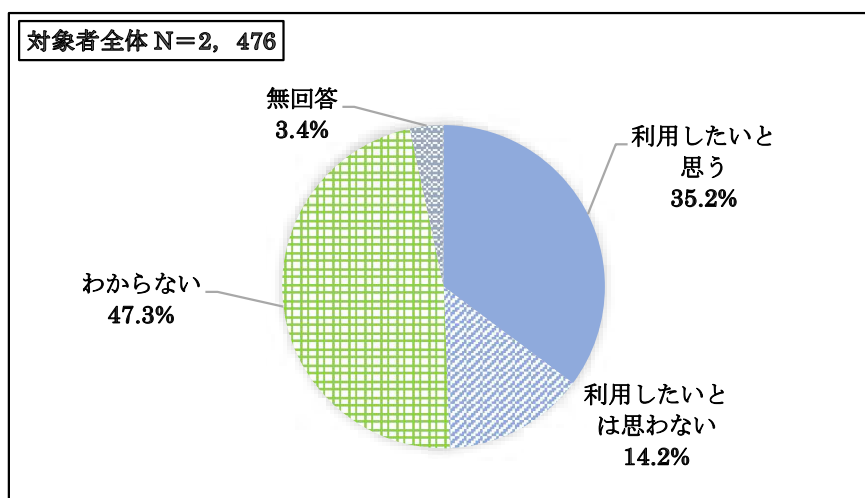
【性 別】「自身に後見人が必要と考えたときに、後見人探しや手続きなどについて相談したい」は、女性で37.4%と、男性の32.4%より5.0ポイント高くなっている。

【年代別】「自身に後見人が必要と考えたときに、活動内容や手続きなどについて相談したい」が40歳代（35.1%）で最も高く、最も低い70歳以上（13.7%）と比べ21.4ポイント高くなっている。

◇成年後見制度を利用したいと思うか否か

問 20 あなたは、将来的にあなた自身の判断能力が不十分になった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

成年後見制度の利用有無は「利用したいと思う」が35.2%



【全 体】成年後見制度については「利用したいと思う」が35.2%、「利用したいと思わない」が14.2%となっている。

【性 別】男女に大きな差は見られない。

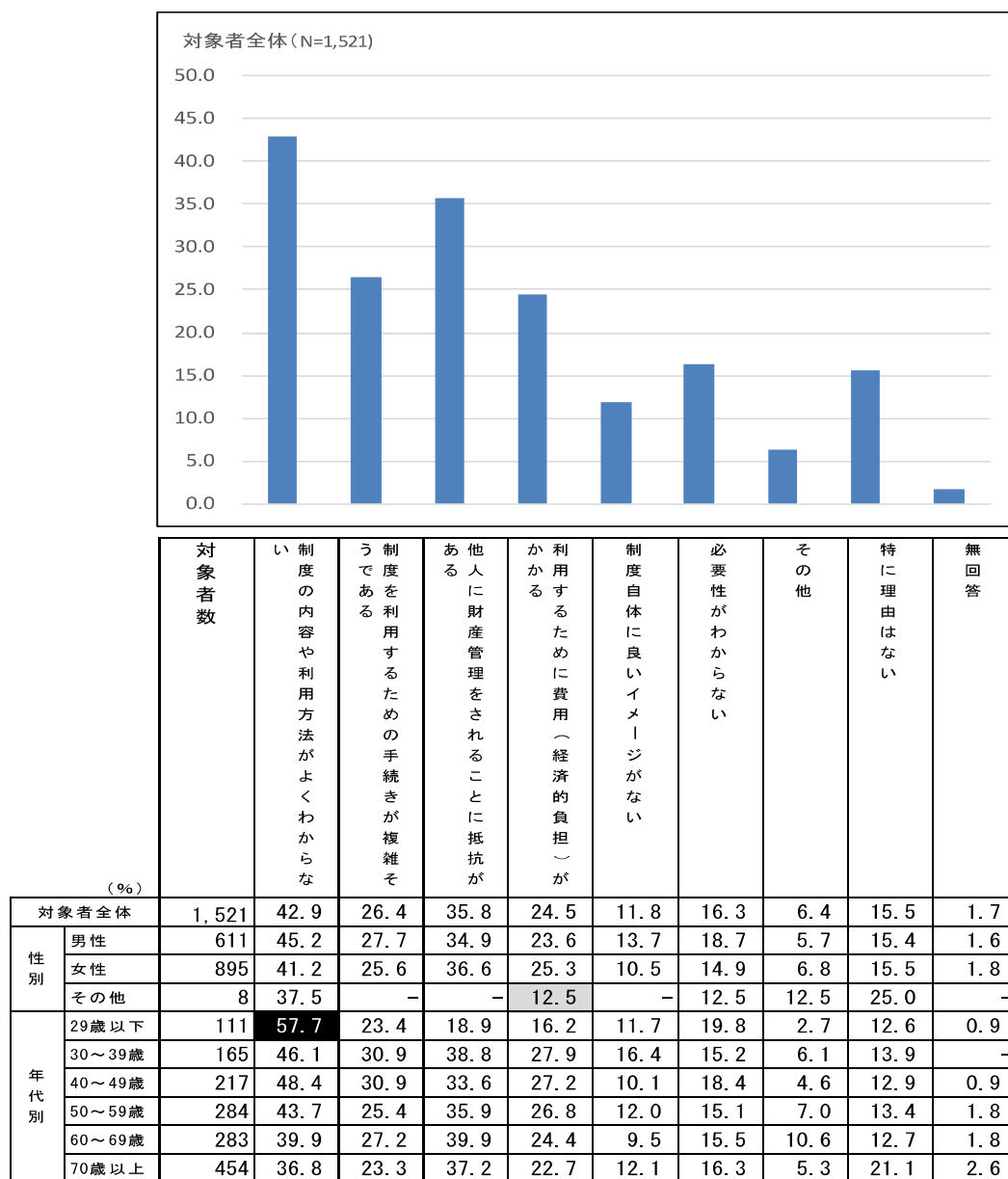
【年代別】「利用したいと思う」が40歳代（40.0%）で最も高く、次いで29歳以下（38.3%）、60歳代（37.3%）となっている。

◇成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由

「問 20」で「2 利用したいとは思わない」または「わからない」と答えた方にお聞きます。》

問 20-1 あなたが、「利用したいとは思わない」または「わからない」と答えた理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由は「制度の内容や利用方法がよくわからない」が42.9%



対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由は「制度の内容や利用方法がよくわからない」が42.9%、「他人に財産管理をされることに抵抗がある」が35.8%、「制度を利用するための手続きが複雑そうである」が26.4%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

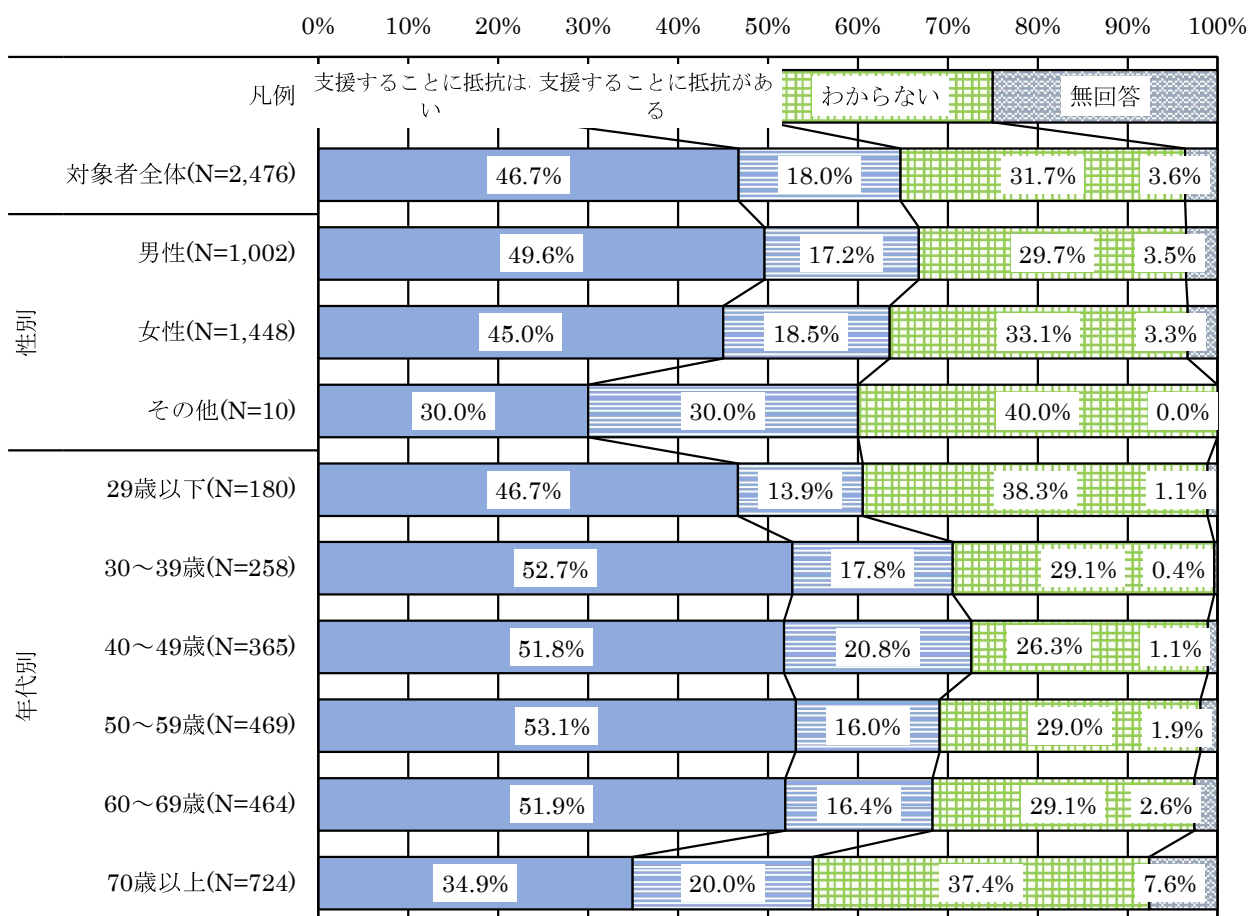
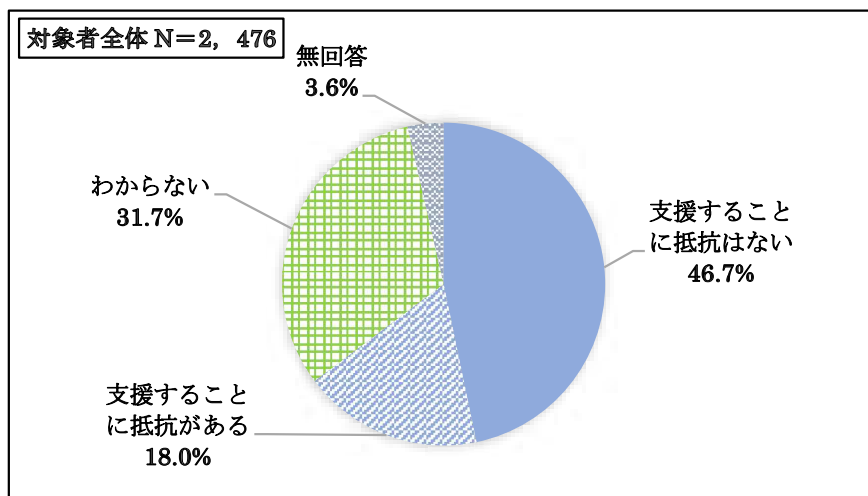
【年代別】「制度の内容や利用方法がよくわからない」が29歳以下、30歳代、40歳代、50歳代で最も高く、70歳以上では「他人に財産管理をされることに抵抗がある」が最も高くなっている。

◇親族の後見人になることへの抵抗はあるか否か

「皆さまにお聞きします。」

問 21 あなたは、親族の判断能力が不十分となった場合、親族の後見人となって財産管理や契約行為の支援をすることに抵抗はありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

親族の後見人になることへの抵抗はあるかは「支援することに抵抗はない」が46.7%



【全 体】親族の後見人になることへの抵抗はあるかは「支援することに抵抗はない」が46.7%、「支援することに抵抗がある」が18.0%となっている。

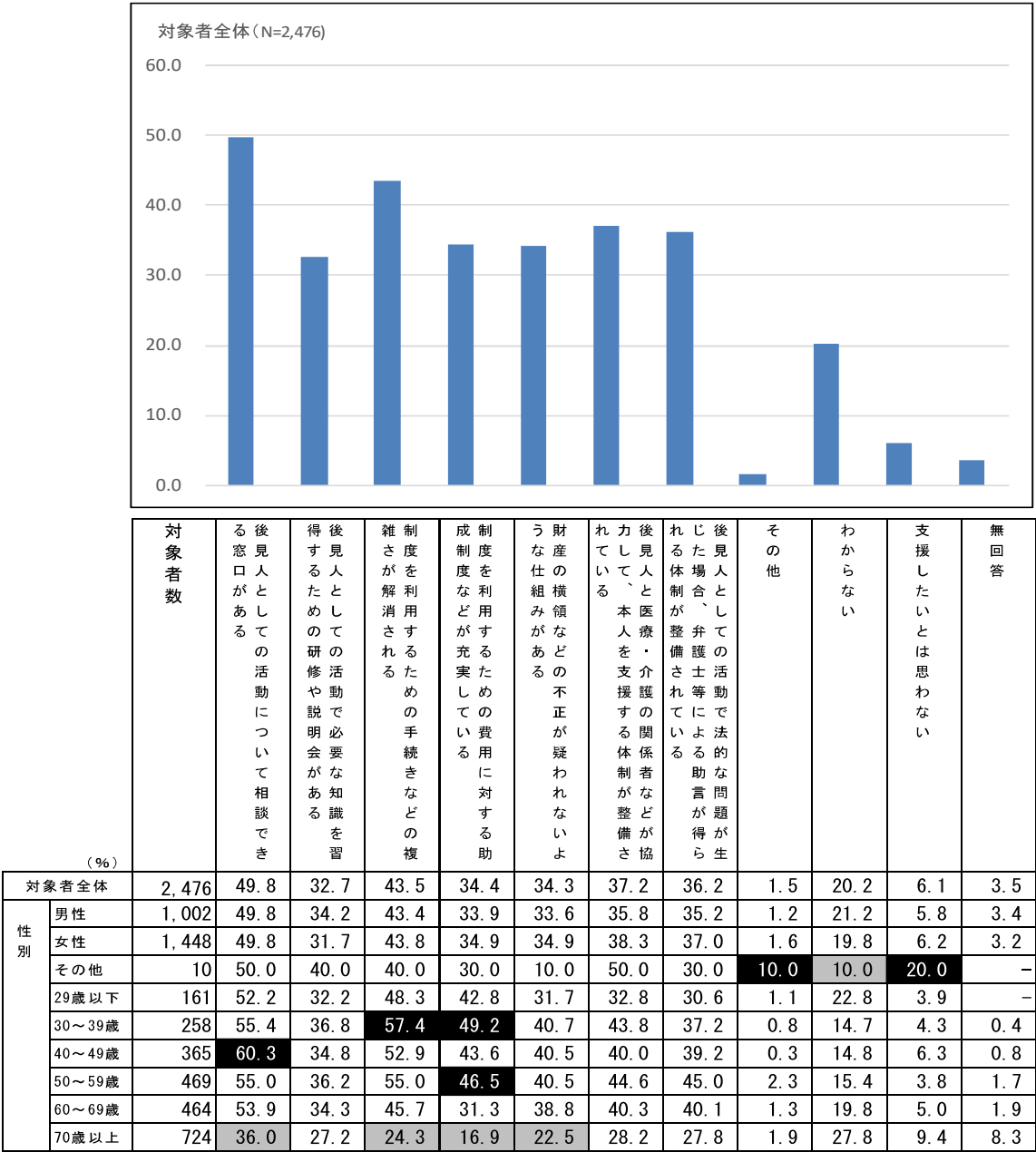
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「支援することに抵抗はない」が50歳代(53.1%)で最も高く、最も低い70歳以上(34.9%)と比べ18.2ポイント高くなっている。

◇親族に依頼された時、後見人として支援したいと思える環境

問 22 あなたが、親族から後見人になってほしいと依頼されたとき、どのような環境であれば、後見人として支援したいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

親族に依頼された時、後見人として支援したいと思える環境は「後見人としての活動について相談できる窓口がある」が49.8%



対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】どのような環境なら後見人として支援したいと思うかは「後見人としての活動について相談できる窓口がある」が49.8%、「制度を利用するための手続きなどの複雑さが解消される」が43.5%、「後見人と医療・介護の関係者などが協力して、本人を支援する体制が整備されている」が37.2%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「後見人としての活動について相談できる窓口がある」が40歳代（60.3%）で最も高く、次いで30歳代（55.4%）、50歳代（55.0%）となっている。